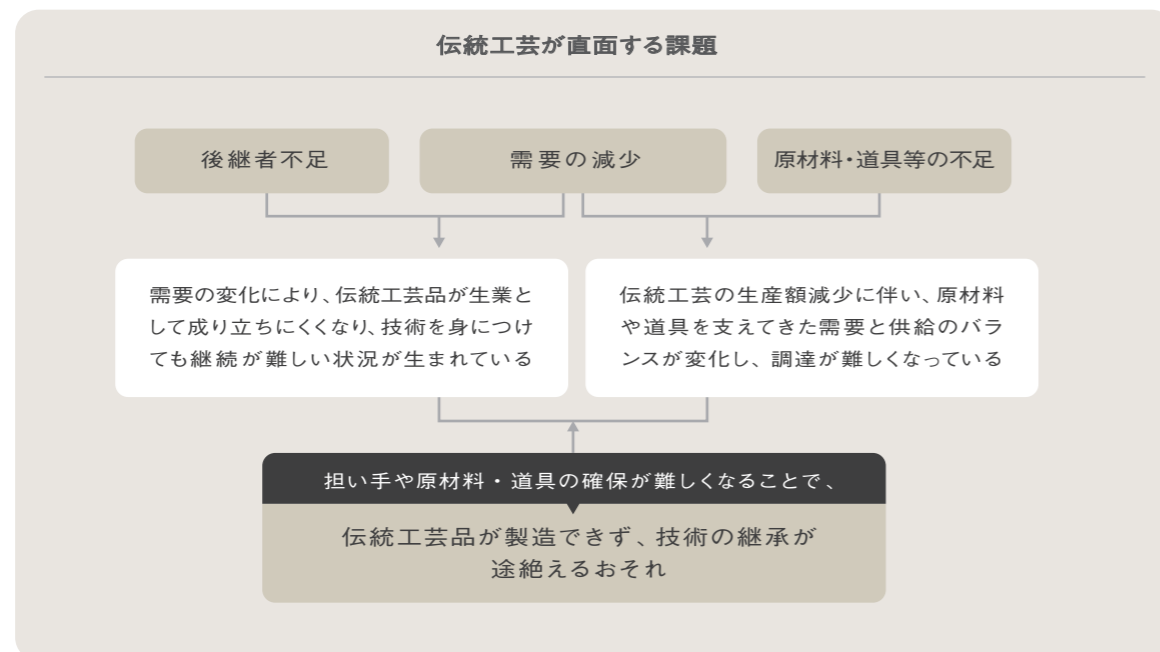


いま、伝統工芸の現場で起きていること

— 危機ではなく、変化として捉え直す —

事実としての「いま」

伝統工芸を取り巻く環境は、この数十年で大きく変化してきました。総務省の調査によれば、伝統工芸品の生産額は減少傾向にあり、従事者の高齢化や減少、需要の縮小、原材料や道具の確保といった課題が、多くの産地で共通して指摘されています。これらの課題は、単独で存在しているわけではありません。担い手が減ることで生産が難しくなり、需要が減ることで生業としての持続性が揺らぎ、原材料や道具を支えてきた産業構造もまた、変化を余儀なくされてきました。数字として示される現状は、伝統工芸がこれまでと同じ前提では成り立ちにくくなっていることを示しています。



「課題」を「変化」として捉え直す

しかし、これらを一律に「危機」として捉えるだけでは、これからの工芸や産地の姿は見えてきません。見方を変えれば、左ページに示した総務省の調べによる「課題」はそれぞれ、時代とともに起きている「変化」として捉え直すことができます。変化が起きているのであれば、その変化に応じて、向き合い方や取り組み方を更新していくことができます。意匠としてのデザインを新しくしていくことも、そのひとつでしょう。けれども、「もの自体」を刷新する前に、守るべきものと見直すべきものを見極めながら、時代に合った「方法論」を探っていくこともまた大切なのではないのでしょうか。



NEXT CONTENTS

4 PRACTICES FOR SUSTAINING CRAFTSMANSHIP

静岡でもまた、こうした変化の前に、それぞれの立場から模索を続けている人たちがいます。次のコンテンツでは、静岡で「作り続ける」ことに向き合いながら、自分なりのやり方を探ってきた4人の職人の現場を紹介します。



Suruga Bamboo Crafts

